

「Coffee Break」は
定期購読者にメール配信していた
「310都議会日記」より
その一部を抜粋したものです。

Coffee Break

柿沢未途



ショートショート映画祭

(配信日：2003年7月7日)

友人である俳優の別所哲也さんが実行委員長をしている「ショートショート映画祭」のレセプションが、オープンしたばかりの六本木ヒルズで開かれました。

短編映画にフォーカスをあてた「ショートショート映画祭」を、私は最初からずっとお手伝いしています。おかげで別所さんとはすっかり友人となりました。

5回目となる今年も、「ショートショート映画祭」東京開催は、盛況のうちに終わりました。私も見てきましたが、社会の矛盾を鋭く突いた作品あり、コミカルな作品ありで、いつもながら多彩で、しかもいずれもすばらしいクオリティの作品ばかりでした。

六本木ヒルズで行われたレセプションには石原知事も来てくれました。私は今年2月の一般質問で、**ショートフィルムのことを取り上げました**。長編映画とは違った魅力と可能性を持つショートフィルムの世界的な見本市として、この「ショートショート映画祭」を育てていったらどうか、という私の提案に、石原知事が前向きな答弁をしてくれました。それがきっかけで、今回の知事の来場が実現したのです。

「あなたに恩を売るわけじゃないけど、今日は韓国の大統領が来日してて宮中で晩餐会があるのを断って、こっちに来たんだ」とのこと。



「ショートショート映画祭」に打ち込んでいる実行委員長の別所哲也さんも喜んでくれて、よかったです。

レセプションでは、今回の映画祭で上映される作品がい

くつか紹介されましたが、「あんまり面白くないねえ」と一言。自ら映画を制作したことのある石原知事らしいクリティカルな批評が口をつきました。

しかし、そのあと、来賓として挨拶に立った石原知事は、「東京から新しい文化を発信したい。今、思いついたけど、**アジアのショートフィルムを集めた映画祭を、来年、この東京でやりましょう。プロデューサーは別所さん。テーマは“幽霊”で**」といきなり宣言して、大いに会場を沸かせました。

この様子、ずいぶん、翌日の新聞やテレビに取り上げられました。石原知事が目論見どおり乗ってきてくれて、私としては「してやったり!」といったところです。

今回の「公約」を守ってもらうため、来年の映画祭に向けての都との話し合いを進めようということで、今、別所さんたちと策を練っています。しかし、いったい「テーマは幽霊」っていうのは何なんでしょうか…。

5回目となる「ショートショート映画祭」東京開催は、盛況のうちに終わりました。私も見てきましたが、社会の矛盾を鋭く突いた作品あり、コミカルな作品ありで、いつもながら多彩で、しかもいずれもすばらしいクオリティの作品ばかりでした。お世辞抜きに本当に面白いです。これまでの作品のDVDも発売されていますので、百聞は一見にしかず。ぜひご覧下さい。

来年の「ショートショート映画祭」では都のサポートも得て、「アジア・ショートフィルム部門」を立ち上げる予定です。☕



◆ Coffee Break 編集スタッフ後日談 ◆
この石原都知事の提案が発端となり、翌年「東京都写真美術館」にて「第1回ショートショートフィルムフェスティバル アジア」がスタートしました。このあたりのエピソードの詳細は、別所哲也氏・著「夢をカタチにする仕事力」(光文社刊)に掲載されました!